

# 山大病院だより

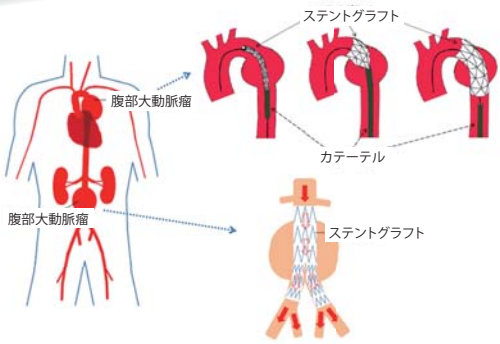
2013  
8月号

No.212



特集

## ハイブリッド手術室が完成しました。



### 図説明

脚の付け根の動脈からカテーテルを挿入して瘤の上方まで進めます。カテーテル先端に圧縮して収納しているステントグラフトを、瘤の上方から下方まで開放して行きます。血流は瘤の上方からステントグラフト内を流れて瘤の下方に出るため、瘤内には血流が流れなくなります。

### 用語説明

- (※1) **カテーテル**：血管などに挿入し、検査や治療を行うための管
- (※2) **ステント**：血管などを管腔内部から広げる医療機器。金属などでできた網目の筒状のもの
- (※3) **ステントグラフト**：人工血管にステントを縫い付けてあるもの
- (※4) **バルーン**：血管など狭小した部分を拡張するための医療器具
- (※5) **バイパス**：血管に閉塞部が生じた時、人工血管等を用いて作る側副路

本年7月、新たにハイブリッド手術室を設置しました。「ハイブリッド」とは二つ以上の異質のものを組み合わせ一つの目的を成すものであり、「ハイブリッド手術室」とは手術台と心・脳血管×線撮影装置を組み合わせた手術室です。

従来の手術室と同等の空気清浄度の環境下で、カテーテル<sup>※1</sup>による血管内治療、外科手術及びそれらを組み合わせたハイブリッド手術などの最新の医療技術への対応が可能となります。

実際に最も行われる手術は大動脈瘤に対するステントグラフト手術<sup>※2,3</sup>です。胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤では、脚の付け根を小さく切開し、ステントグラフトを圧縮・収納したカテーテルを動脈より挿入し、瘤の上下で開放して留置します。開腹や開胸では15～20cm切開するところが、3～4cm程度の切開で済むため、術後の痛みも少なく圧倒的に回復が早く、5～7日程度で日常生活に戻れる負担が少ない治療です(図)。

本院では今までもこれらの手術を積極的に行っていましたが、ハイブリッド手術室の導入により、更に安全かつ迅速に実施可能となります。また、大動脈瘤が広範囲に及ぶ場合は、外科手術とステントグラフト手術を組み合わせたハイブリッド手術が必要となりますが、その実施も円滑かつ効率よく可能となります。その他には閉塞性動脈硬化症に対するバルーン拡張・ステント留置術<sup>※4</sup>などの血管内治療も同手術室で行い、必要に応じて外科手術であるバイパス術<sup>※5</sup>を組み合わせたハイブリッド手術も行います。

近い将来には、大動脈弁狭窄症<sup>大動脈弁狭窄症</sup>などにカテーテル的大動脈弁置換術の実施が可能となる見込みです。その際にもハイブリッド手術室が必須となります。

ハイブリッド手術室の導入は、患者さんに最良の治療を提供し、さらに手術の安全性の向上、手術時間の短縮により、患者さんに身体的負担の軽減をもたらすことが最大のメリットです。

問合せ先

第一外科(外来) ☎0836-22-2510



# 山大病院 NEWS

## 2013 6月 災害・食中毒発生時の患者食の相互援助の協定を締結

6月3日(月)、宇部興産中央病院、山陽小野田市民病院、山口労災病院及び山口大学医学部附属病院の4病院は、災害や食中毒等の発生によって、患者食の調理施設が使用不能となった場合の相互援助を円滑に行うために協定を締結しました。

この4病院は平成14年から、主に食中毒発生時を想定した協定を交わしていました。東日本大震災や近年多発している災害の経験を踏まえ、災害にも十分対応出来るように協定内容の見直しを進めてきました。

今回、援助の内容及び費用負担を災害時と食中毒発生時に明確に分け、災害時においては、新たに管理栄養士または栄養士の派遣援助についても定める等の内容を改めました。

締結式には、山口労災病院 坂部院長、山陽小野田市民病院 瀧原院長、山口大学医学部附属病院 田口病院院長、宇部興産中央病院 福本病院院長(写真右から)が出席し、署名・押印後に協定書を交わしました。この協定について、田口病院院長は「これまで以上に4病院の協力体制を高めていきたい。」と抱負を述べました。



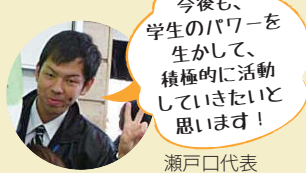
禁煙外来(第二内科) 0836-22-2501



## 2013 5月 Code Orange(コード オレンジ)が第1回おもプロ学長賞を受賞!

山口大学おもしろプロジェクト(※1)認定企画のCode Orangeが、第1回おもプロ学長賞を受賞しました!しかも、受賞3団体の中で1位!

Code Orangeとはいったいどのような活動をしているのでしょうか・・・!?



瀬戸口代表

Code Orangeは、山口大学医学部の学生からなる、心肺蘇生法をはじめとしたBLS(一次救命処置)の県内普及を目的としたサークルとして、2008年に設立されました。

「BLSを広めることで、1人でも多くの命が助かってほしい!」との思いから、定例会での講習会や実践講習会のほか、県内のイベントや学校へ出向いて出張BLS講習会を開催したり、宇部駅伝では自転車救援隊として参加して日頃の練習の成果を発揮しています。出張BLS講習会の申し込みを受け付けていますのでご希望の方はメールにてご連絡ください!費用は一切かかりません。

問合せ先 p059eb@yamaguchi-u.ac.jp (Code Orange・瀬戸口代表)

ウェブサイト 山口大学 Code Orange

(※1)おもしろプロジェクト  
学生の自主的活動に対する資金支援制度。毎年4月に学生から企画を募集し、選考委員会による審査を経て認定された企画は、大学からの資金支援を受けながら1年間の活動を行います。

## 2013 5月 上田和弘講師が日本呼吸器外科学会賞を受賞



この賞は、この10年間に呼吸器外科の発展のため優れた業績を発表した若手医師に対して原則年1人に贈られるものです。

上田講師は、「安全かつ体にやさしい肺がん外科治療」を追求し、様々な研究成果を世界に発表してきました。最小限の傷と最小限の臓器切除によりがんを完治させること、手術後の合併症を起さず、早期に社会復帰するための安全対策などを講じた結果、優れた治療成果をあげたことが特に高く評価されました。

上田講師は「日本呼吸器外科学会賞は全国の呼吸器外科医が夢見る、名誉ある賞なのでとても光栄。これを弾みに、今後患者さん一人ひとりが恩恵を実感できるように新しい医療の開発を目指していきたい。」と、受賞の喜びと今後の意気込みを語りました。

6月5日(水)、医学部及び附属病院周辺において、吸い殻クリーン作戦を実施しました。

これは、「世界禁煙デー」及び「禁煙週間」における活動として、医学部と附属病院の労働安全衛生委員会が合同で毎年実施しているものです。

今年も、田口病院長をはじめ、教職員及び学生の21名と山大キャラクターのヤマミイが参加しました。禁煙アピールのユニホームを着用し、本院周辺の吸い殻清掃を行うとともに、喫煙職員等にヤマミイやちよるるがデザインされた禁煙啓発バツジや携帯灰皿の配付、敷地外への出口に受動喫煙防止の掲示を行いました。

本院は禁煙外来を開設していますので、禁煙したいと思っている方はぜひご相談ください。

## 2013 6月 吸い殻クリーン作戦



- | 個人賞 |              | 団体賞  |         |
|-----|--------------|------|---------|
| 第一位 | 第二外科 助教 鈴木伸明 | 第二位  | 第二外科    |
| 第二位 | 泌尿器科 講師 原 貴彦 | 敢闘賞  |         |
| 第三位 | 皮膚科 助教 山口道也  | 眼科   | 視能訓練士一同 |
| 第三位 | 眼科 講師 木村和博   | 放射線部 | 放射線技師一同 |
|     |              | 検査部  | 心電図室    |



眼科の佐藤洋一視能訓練士及び看護部の村田三代子副看護師長が、「平成25年度病院優良従業員表彰」を受賞しました。この表彰は、社団法人山口県病院協会から、病院の発展に尽力し、広く県民の健康福祉の増進に貢献した病院職員に贈呈されるものです。

伝達式では、田口病院長から受賞者に表彰状と記念品が授与され、本病院への功労に対する敬意並びに今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞がありました。

また、園田眼科長、猪上看護部長、原田副看護部長、阿部事務部長も同席し、受賞を祝しました。

## 2013 6月 田邊剛教授が宇部興産学術振興財団第53回学術奨励賞を受賞

環境統御健康医学分野の田邊剛教授が「宇部興産学術振興財団第53回学術奨励賞」を受賞しました。

この賞は、宇部興産学術振興財団から自然科学分野の優れた独創的研究をしている者に対して研究援助金が贈呈されるもので、田邊教授は「骨髄移植後合併症の新規予防・治療法開発・自然免疫因子インフラソームの活性制御」の研究課題で受賞しました。

田邊教授は「光栄にも宇部興産学術振興財団学術奨励賞を受賞させていただきました。大変有り難く、嬉しく思います。この受賞を大いに励みとし、疾患の予防と治療に役立つ研究成果を上げていきたいと思えます。」と、受賞の喜びを語りました。



## 2013 6月 小坂まり子看護師長が山口県健康福祉功労者知事表彰を受賞

感染制御室の小坂まり子看護師長が「平成25年度山口県健康福祉功労者(優良看護師)知事表彰」を受賞しました。

この表彰は、社団法人山口県病院協会から、多年にわたり看護業務に従事し、県民の保健福祉の向上に顕著な功績があった優良看護職員に贈られるものです。

小坂師長は「自分もまさか定年まで勤務できると思っていませんでした。長く勤めてこられ、知事表彰を受賞できたのも、本当に皆さんのおかげです。ありがとうございました。」と、受賞の喜びを語りました。



ひと  
山口大学医学部附属病院にまつわる方々を紹介します。

## 2013 6月 平成25年度病院優良従業員表彰伝達式

## 2013 6月

## Report イベント! レポート

様々な出来事をご紹介します。

## 2013 6月 キャリナビ in 山大

6月7日(金)と6月21日(金)に、医学部・研修医を対象に「キャリアナビゲーション in 山大」を開催しました。

今回は、本院の各診療科部の特徴や研修医への教育・支援体制及び専門医取得を含めたキャリアサポート体制の説明に加え、県内の協力病院を招き、協力病院での研修内容等について、ブラス方式で説明会を行いました。

両日で計142名の学生・研修医の参加があり、参加者からは「進路の参考になった。」「希望の科について、ゆとり話聞いて良かった。」「多くの診療科や関連病院の説明を一度に受けることができ、とても良かった。」などの感想があり、盛況のうちに終了しました。





## 200年前の悲劇 香川津二孝士のはなし

地域医療推進学講座の中村です。幕末期の医学史を調べている時に、萩市内で香川津二孝士の碑を見つけました。その碑は松陰神社からほど遠くない松本川流域にひっそりと立っていました。

“(萩市説明文より抜粋) 十代萩藩主毛利斉熙(なりひろ)のころ、萩城下郊外の椿東分けに長七という駕籠かきが住んでいた。その子供に権蔵と利吉という兄弟がいた。文化十二年(1815)、母は末の妹を生んでから病床に臥すようになった。そこで兄弟二人は、新堀の金毘羅社(現在の円政寺境内)まで三十町(約3.3キロ)の道程を、病氣平癒の祈願のため毎日通うことになった。しかし、その満願の日(12月11日)二人は折からの風雪について参拝したが、帰途松本川の川岸で倒れてしまった。”

ここで出てくる金毘羅社は、高杉晋作の母が晋作に物恐れしない子になることを願い、境内にある大きな赤い天狗の面を見せていたことでも有名なお寺です。時代を経ても変わらぬ親子の情に胸が熱くなると共に、江戸時代に政治経済の中心であった萩城下においてさえも、病名も分からず、ただ祈るしかない昔の医療事情がもどかしく思えました。ふたりの兄弟を死に至らしめた母親の病気は一体何だったのでしょうか?何も物証がなく、今となっては想像するしかないのですが、この母親の病名には未治療の膠原病も鑑別にあがります。この病気の多くは現在でも難病に指定されていますが、診断や治療の歴史からは、このあと1942年のKlempererによる“膠原病の概念の提唱”や、治療に関しては、1948年のKendallによるステロイド剤(コルチゾン)の発見、同年Henchによる“関節リウマチに対するステロイド療法”、1965年の“膠原病に対するステロイド療法”まで待たなければなりません。ちなみに、ステロイドに関する研究では、Hench、Kendall、Reichsteinの三人の医師は1950年にノーベル医学生理学賞を受賞しました。一方、萩藩で最初に西洋医学(蘭学)を取り入れ庶民への診療を開始した医学館・好生堂が完成したのは、兄弟の死後30数年あとのことでした(写真)。

最後に、兄弟の死因は、低体温症に伴う心停止であったと推察します。最新の医学を以てしても“心停止”はこの最近までは、“死”を意味しておりました。しかしながら大規模な医学的証拠に基づいた心肺蘇生技術と、自動体外式除細動器(AED)等の普及により、市民による救命が可能となってきました。学ぶことは救命につながります。私たちも地域における心肺蘇生術のスキル教育を始めています。地域で救えるかもしれない小さな命も助けたいからです。

【地域医療推進学講座 中村浩士】



香川津二孝士の碑  
(東萩駅近く)



長州藩医学館・好生堂の碑  
(萩市・玉木病院)

萩藩に初めて医学館ができたのが1849年(嘉永2年)であり、それまで和漢が中心であった医療に、西洋医学が急速に導入されて現代に至っています。

## お知らせ

### 肝硬変患者に対する自己骨髄細胞投与療法 (Autologous Bone Marrow Cell infusion, ABMi療法) について

本院の「C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対する自己骨髄細胞投与療法(ABMi療法)の有効性と安全性に関する研究」が、厚生労働省から6月1日付けで「先進医療B」として承認されました。

この療法は、肝硬変の患者さんから採取した骨髄液に含まれている骨髄細胞を患者さん自身に点滴で戻すと、骨髄細胞が肝臓へ移動して肝硬変の線維化が改善し、さらに肝細胞、肝前駆細胞が活性化され肝臓の再生を引き起こし、肝機能や症状の改善が期待できます。

今後は「先進医療B」として、その有効性と安全性を評価するために無作為比較(ランダム化)試験として臨床研究を行います。今後の臨床研究の実施状況等の詳細は、ホームページでお知らせしています。

山口大学医学部附属病院 第一内科 肝臓再生療法グループ

### すぐ使える 豆知識 コーナー

### ハーブを使ったまめまめ情報

#### < 育毛ローションの巻 >

#### 作り方

- ① ラベンダー・ローズマリー(ドライハーブ各3g)を密閉できるビンに入れます
- ② ①の中へ38～40度のアルコール(ウォッカ)を50ml入れます。  
※ウォッカの代わりにホワイトリカーでも可。  
ハーブが浸かるまで入れてください。
- ③ 2週間保存(毎日ビンを振ります) 頑張れ!(^o^)/
- ③ ハーブを濾し、精製水100mlを加えて出来上がりです。



#### ※おちまめ知識

ローズマリーは、若返りのハーブとして有名です(\*^\_^\*) すっきりとした香りと味で、じとじとの夏にリフレッシュ効果がありますよ。

メディカルハーブセラピスト M.A

#### 編集後記

病院だよりを患者さんに配り始めて2号目! 1号目はなんと、600部も増刷させていただきました。これからもたくさんの方に手に取ってもらえるようがんばります☆

編集担当(総務課総務係): K.T.、C.I)

#### ■発行者情報

企画発行: 山大病院だより編集委員会  
事務担当: 山口大学医学部総務課総務係  
TEL: 0836-22-2007  
E-MAIL: me202@yamaguchi-u.ac.jp